
ノンカピスコ・あなたが大好き

天野 涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノンカピスコ・あなたが大好き

【Nコード】

N1852E

【作者名】

天野 涙

【あらすじ】

大学生の修平の住むワンルームに盗聴器が仕込まれていたのが見つかった。それから不審な出来事が連続に起きる

ピンポン、ふいに鳴ったドアフォン

『突然に申し訳ございません、東洋テレビの者です。』

(東洋テレビ???)

修平はテレビを消し、ドアを開ける。

立っていたのは、30代のメガネの男。その後ろにも40代の男。手に何やらカバンを持っていた。

男は、ロケで町中を走っていたら、この部屋からの盗聴電波を拾ったので、確認しませんかと言う。

(ええ?盗聴???)

修平は、つい先日この部屋に越してきたばかり。思い当たる節はない。でも気持ちが悪いので、確認するのを許可した。

自分の顔は映さないでくれと念を押す。

すると、後ろにいた40代男が、持っていたカバンの中身を開け盗聴器探知機を取り出し、部屋をウロウロすると・・・

『ありました!!』

見つけられた盗聴器は3つ。いずれも電源の中に仕込まれていた。それからあるうことが、盗撮カメラまで見つかったという。

盗撮カメラが仕込まれていたのは、クーラーの上、わずかな隙間にあった。

『前の住人さんが仕掛けられたのに気がつかないで、置きみやげしていったのかもしれないね。』

テレビ局の男はそう言うつと、もう用はないと言わんばかりにそそくさと

出ていった。

修平は、もう一度部屋の中を見回す。

偶然とは言え、盗聴器の存在がわかりよかったと思うことにしたが・

何とも気味が悪い。

冷めて伸びたカップラーメンはもう食べる気がせず、その夜は近所の居酒屋で

済ませることにした。

次の日大学で会った彼女の美沙子に話をすると、

『ええ〜???やだ。と言うことは私達の会話も聞かれちゃってたわけ?』

『そうだろうな……。』

『と言うことは……。あの声も???』

『……。かもな。』

部屋での会話が聞かれていたとしたら、ベットでの会話も当然聞かれている。

そしてあの声も……。

『もう修平の部屋には行かない。』と顔をゆがめる美沙子。

『大丈夫、それも撤去してもらったから。』

『でも……。』

修平が美沙子をなだめていると、彼女の友人の尚美が通りかかる。

『どうしたの？』

『あ〜ん、尚美、聞いてよ。』

美沙子と尚美は、幼なじみの親友同士。家も近所。学校もずっと一緒。

服装の趣味から髪型まで共有するかのように似ている。

あまりの仲のよさに、男まで共有しているのではとの噂もあると修平は、他の友人から聞かされた。彼はその噂を否定はしたが実は、修平は一度だけ尚美と関係を持ったことがある。

よくある酒を飲んだ後での事だ。

それは修平と尚美だけの秘密だった。

その後特に尚美の態度に変化はないので、修平もその事は気にもしていなかったのだ。

ただたまに、尚美の妙に熱い視線は感じてはいたが、彼女が親友の美沙子を

それ以上裏切るとも思えなかった。

今のワンルームは、この度内定した企業に

通勤するのに便利なのと、美沙子の家が近いのことで選んだ部屋。

来年卒業すれば、もう尚美ともそう顔を合わせる機会も無くなるだろう。

しかし盗聴器の騒ぎ以降 徐々に不審な出来事が起こる。

郵便物が誰かに荒らされている。

捨てた筈のゴミが持ち帰られていた。

部屋に帰ると、朝散らかして行った筈なのに、ちゃんとかたずいている。

誰かが、勝手に洗濯物を干している。食器も洗っていたりする。

（・・・おかしい）

明らかに、誰かが 自分の留守に出入りしている。

合鍵を渡しているのは美沙子だけ。

最初は美沙子が、世話をしてくれているのかと思っていた。

でも・・・盗聴器以降 美沙子は部屋に来たがらない。

なのでもっぱら外で会う機会が多い。その時に帰宅すると部屋が片づいている。

（じゃあ・・・もしかして尚美？）

仲がよい二人は、互いの家に頻繁に出入りすると聞いていた。

美佐子の留守の間に、合鍵をコピーするのは可能はず。

だとしたら・・・自分は尚美にどう対応すればいいのか。

単に好意の延長だけとも思えない。もう立派なストーカー行為だ。

その前に盗聴器の件だってあったのだから、修平はその足で

警察に相談に行った。警察には、案の定おざなりに対応されたが、未然に防ぐ方がいい。

疑心暗鬼になっていたら、あっさり尚美は、不法侵入で

警察に逮捕される。

尚美は予想どおり、美佐子に渡した修平の合鍵をコピーして

留守宅に侵入していたのだ。盗聴器も盗撮カメラも彼女が仕掛けた事を認めた。

『美佐子なんかより、ずっと、私の方が修平を愛してるから。』
尚美はそう言ったと警察から聞かされた。

美佐子は激怒して、尚美にも、修平にも絶縁をつきつけてきた。

しかし、もうすでに、美佐子への思いは冷めているので、どうでもよかった。

(これで終わった・・・もう安心。) そう思っていたのに・・・

事件後も、なお不審な出来事は続いた。

部屋は掃除され、洗濯物はきちんと干してある。

台所の洗い物はきれいに洗ってある。

(おかしい、尚美ではなかったのか?)

いいや、尚美は自分だと認めたので、他に犯人はいないはずなのに
修平は不審に思い、尚美の所に面会に行く。確認したかった。

久々に会う尚美は、まるで修平の来ることを予期していたように
微笑む。

『元気にしてるの?』

いざとなると、聞くつもりでいたことが聞けない。

『知ってるわ。あなたが何で来たのか。』

『・・・・・・。』

『私が捕まったのに、あなたの部屋に誰か来てるのかわからないんでしょ?』

『ああ、尚美の他にいるのかと思って・・・。』

『いないわ。私は今もあなたの世話をしてるもの。』

『え？どういう事？』

『こっちの私の方が抜け殻なのよ。』

『・・・・・・』

尚美は、不気味に笑う。

身体はここにあって、心はあなたの部屋に行ってるというのが。

『それは、あなたがどこに行っても、変わらない。』

引越そうとする修平の心を見透かすように微笑む尚美。

修平は、背筋がぞっとした。

夜、一人で眠っていると、耳元で声

『修平、修平』

背中に人の気配、細い腕が絡む。振り向く事が出来ない修平。

『今日は嬉しかった』

『あなたが大好き。』

尚美の声が、確かに聞こえた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1852e/>

ノンカピスコ・あなたが大好き

2010年10月9日15時21分発行